

## 1 単元名 「かけ算の筆算(2,3位数×1位数)」

### 2 単元について

整数の乗法は、生活の中で活用場面が多い。乗数が2位数以上になると、暗算は難しいので、正確に積を知りたい場合は、電卓を使うか、筆算をするかのどちらかである。また小数の乗法も整数の乗法と同じようにして計算できるので、応用範囲は広い。

筆算のよさは、位ごとに九九の結果をかきとめていき、機械的に数を処理していけば、答えを求めることができるという点にある。ところが、九九の結果を表す数値がどんな部分積を表しているのかといった、量感は伴わない。乗法の計算はこの単元が最初であるので、九九の結果を表す数値が具体的にどんな大きさを表しているのかを理解させながら、筆算の仕方を理解させるとともに、その習熟をはかることが大切である。

これまでに、かけ算九九を習得し、1位数同士の乗法は暗算できるようになっており、0が乗数や被乗数になった場合、また10が乗数や被乗数になった場合などについても学習してきている。整数の加法減法については、筆算の手順の学習が完成している。本単元では乗数が1位数の場合の筆算の仕方を習得する。乗数が2位数以上になった場合にも、本単元で学習する筆算の手順は、大いに生かされることになる。

指導にあたっては、これまでの学習で身につけた手順や数学的な考え方を生かして、児童自らの力で乗法の筆算の手順を類推していく学習が好ましい。様々な形式の筆算の手順を考え、交流することによって、いかに間違いを少なく素早く計算をするかを練り上げる学習を展開する。そうすることで、整数の性質や乗法の性質、十進位取り記数法などの大切な既習事項の定着につながるし、数学的な考え方をのばすこともできると考える。

この際、筆算の仕方の手順を機械的に覚える学習にとどまらず、たとえば九九の結果が表している部分積について話し合ったり、半具体物を使って視覚的にとらえていくような学習を展開したい。また、生活に必要な技能としても、これからの学習の基盤としても大切な内容であるので、繰り返し学習などを通して、確実に身につけられるようにしなければならない。

### 3 単元の目標(詳細は、評価規準参照)

- ・  $(2,3\text{位数}) \times (1\text{位数})$  の計算方法を考え、進んで筆算で処理しようとする。(関心・意欲・態度)
- ・  $(2,3\text{位数}) \times (1\text{位数})$  の計算の仕方を数のきまりや計算のきまりをもとに、考えることができる。  
(数学的な考え方)
- ・  $(2,3\text{位数}) \times (1\text{位数})$  の計算を筆算や暗算でできる。(表現・処理)
- ・  $(2,3\text{位数}) \times (1\text{位数})$  の計算の仕方が分かる。(知識・理解)

### 4 単元計画(詳細は、評価規準参照)

- ・ (何十,何百)×(1位数)のかけ算の立式と計算 ----- 1時間
- ・ (2位数)×(1位数)の計算の仕方 ----- 1時間
- ・ (2位数)×(1位数)の筆算の仕方 ----- 4時間
- ・ (3位数)×(1位数)の筆算の仕方 ----- 2時間(本時1/2)
- ・ 簡単な(2位数)×(1位数)の暗算 ----- 1時間
- ・ 練習問題 ----- 2時間

5 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・ (2位数) × (1位数) の筆算の仕方をもとにして, (3位数) × (1位数) の筆算の仕方を自分の力で見出し, 計算することができる。

(2) 学習指導過程

学習活動・意識の流れ	支援と留意点
<p>1 問題場面から立式をし, 筆算の仕方を考えようという課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>137円のおかしを2つ買うと, 何円になるでしょう。</p> </div> <p>2 筆算の仕方を自らの力で見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算棒などの道具を使って考えよう。</li> <li>・ (2けた) × (1けた) の計算の仕方をもとにして, 考えよう。</li> </ul> <p>3 筆算の仕方を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 137は100と30と7だから, それぞれの数に2をかけ, <math>7 \times 2</math>, <math>30 \times 2</math>, <math>100 \times 2</math> の答えを足すと, <math>137 \times 2</math> の答えになるよ。</li> <li>・ (2けた) × (1けた) のときは, かける数をかけられる数の一の位と十の位にかけてたし算をしたから, 同じようかけられる数の百の位にもかける数をかけてたすといいと思うよ。</li> <li>・ 答えは274だ。2けた × 1けたと同じように計算できるぞ。</li> </ul> <p>3 筆算の仕方の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じやり方で練習問題をやってみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ が こという計算はかけ算で求められることを押さえる。必要に応じて, 数を1位数にするなどして, かけ算の意味をもとに立式できるようにする。</li> <li>・ (2位数) × (1位数) で筆算の仕方を学習したことを想起させ, (3位数) × (1位数) になっても筆算で計算できないかどうかを考えるよう意識づける。</li> </ul> <p>〈評〉 【考】「(3位数) × (1位数) の筆算の仕方を, 見出すことができる。」</p> <p>B: 具体物を操作して, (3位数) × (1位数) の筆算の仕方を見出すことができる。</p> <p>A: (2位数) × (1位数) の筆算の仕方をもとにして, (3位数) × (1位数) の筆算の仕方を見出すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物操作がうまくできない子は, 一緒に操作をして, 手順を確認する。</li> <li>・ 具体物を使った考え方の手順を, 筆算の手順につなげられるように, 計算棒などの半具体物を数に変換していく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例題の定着度を見取り, 個々のつまづきを把握して, 個別指導をする。</li> </ul>